

頓原町から飯南町へ

町区新道町にお住まいの

鳥屋ヶ原孝さん(昭和九年一月生)

旧頓原町で、永く町議会議員を務められた鳥屋ヶ原孝さんにインタビューしました。

私は、頓原町議会で7期、飯南町との合併時の在任特別期間を合わせて30年近く議員を務めさせていただいた。

お世辞のひとつも言えない無骨物ではあるが、町民の皆さんにご支持をいただき、ありがたいことと感謝している。家族にもずいぶん苦勞をかけたが、黙って支えてくれ、感謝でいっぱいだ。

この間、一番大きな事案は平成の大合併だった。

国の方針ではあったが、まず国自体が合理化を行い、地方に示すべきだと思った。議会にし



ても、国と地方

では大きな格差があ

った。

議員として取り組んだことは

老人福祉の中で、特別養護老人ホームが絶対必要であると思

い推進した。

否定的意見のある中で、複数

の同僚議員と協力し、建設に漕

ぎつけたのだが、ふりかえって思

えば大変な道のりであった。

運営され始めてからは、雇用

が生まれ、お年寄りが安心して

暮らせる環境を整えることが出

来た。何歳になっても、生まれ

育った町で知人に囲まれて過ご

せることは大事なことだと思っ

ている。

財政面では、地元負担金の財

源に苦慮したが、多くの町民の

皆さんにご協力いただいた。

飯南町議会に望むこと

議会に定められた仕事がある

中で、10人の議員でこれを行う

ことには無理がある。

常任委員会が2つでは、一人

の議員が複数の事案を受け持つ

ようになり、不適切だと思う。小さな町といえども、議会には適正な議員数が必要で、10人ではどうにもならない。

常任委員会のほかに監査委

員会、広報委員会、議会運営委

員会がある中で、特別委員会の

設置が必要にでもなれば、とて

も対応が出来ない。最低12人の

議員が必要だと思う。本来なら

ば14人の議員が必要だ。常任委

員会は3つあるべきだ。

これからは、議員提案による

条例の制定が出来るようでなけ

ればいけない。そのためには、議

員定数を増やすことと、議員は

研修を重ね研鑽に励んでもら

たい。



思い出が次つぎとよみがえってきます

「図書館は静かに…」と、子供たちに言っているはずですが、腹をよじって大笑。交流センターとんぼらの図書室では、町の歴史を綴った小冊誌を見ながらの昔話に花が咲いていました。鳥屋ヶ原さんは、ただ今85歳。元氣な奥さんと頓原の町区に2人で暮らしておられます。議会人の先輩らしく、ご意見をしっかり持たれておられて頼もしい限りでした。

編集後記

本年6月議会に上程されたすべての議案は、可決承認され、さらに良い方向に向かうものと思われま

す。我々は議会人として常日頃より一丸となって、本町の進むべく道

筋を見極め、議論を重ねている所

であります。今後も更に良い方向

に向かい、住みよい「ふるさと」にな

りますよう、努力して参ります。

「担い手不在の集落」が、県内で1

094箇所、県下の農業集落407

8箇所の26・8%を占め、将来的に

農地維持が困難であると分析され

ています。県は、この問題に向う5

年間をめどに、積極的に対応をしよ

うとしております。地域農業を支

援し認定農業者、新規就農者を増

加育成する方向に動き出します。

私達は、そのような県の動きを

よく見極め、さらに良い地域が形

成されるよう努力しなければなら

ないと考えております。町民の皆

様と共に手を携えて頑張ってい

りましょう。

議会広報編集委員会 瀧尻 行雄

今月の表紙写真

